



セネガルの子どもたちに教育を！

バオバブの会 ニュースレター

2014年 No.3

(通巻34号)

4月27日発行



花のさかりも過ぎて、新緑の季節へと移りつつありますが、皆様方にはお元気でお過ごしでしょうか。

今号は、5月のイベントのご案内を中心にお届けいたします。

横浜と東京で行われます3つのイベントに、皆様お誘い合わせて是非お出で下さい。

**** イベント案内 ****

***あーすフェスタかながわ2014** <http://www.earthplaza.jp/earthfesta/program.html>

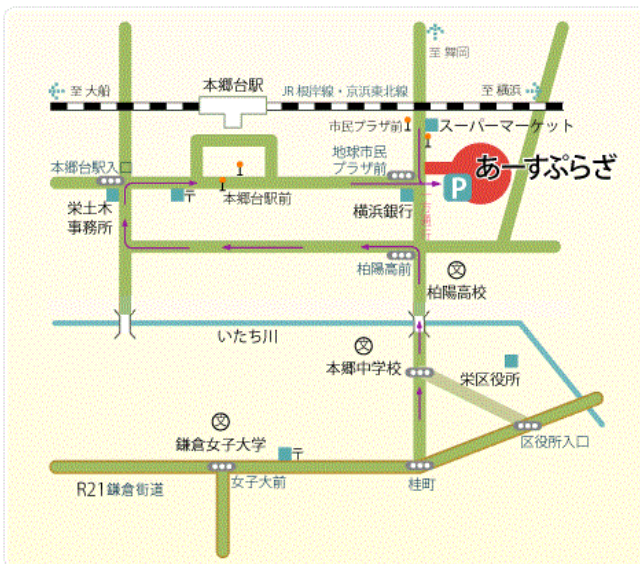
日時：2014年5月17日（土）18日（日）

10:00～17:00

会場：あーすプラザ

横浜市栄区小菅ケ谷1-2-1（JR根岸線「本郷台」駅 改札出て左すぐ）

地図はあーすプラザのHPのものを使用させていただきました。



異なる国籍、文化を持つ多くの人々が集い、出会い、それぞれの文化や考え方をアピールするとともに、互いを理解する機会を作るため、神奈川県内の民族団体、NGO、市民ボランティアなどが企画段階から協力して開催するものです。テーマは「みんなで育てる多文化共生」。屋台、バザール、フォーラム、民族楽器コンサート、ワークショップなど、多彩な企画が用意されています。

バオバブの会は初めての参加で、屋台（食販）とバザール（物販）の2つのブースに出展し、屋台においてはマフェ（トマトとピーナツソースのビーフシチュー）、ヤッサ（マリネしたチキンと玉葱のシチュー）、ベニエ（ココナツやレーズン入りアフリカドーナツ）、バザールにおいてはケベサック（セネガルのお母さんたち手作りのアフリカプリント布バッグとポーチ）、アフリカ関連児童書等を販売する予定です。

***かながわ湊フェスタ かながわく国際交流まつり**

日時：2014年5月25日（日）

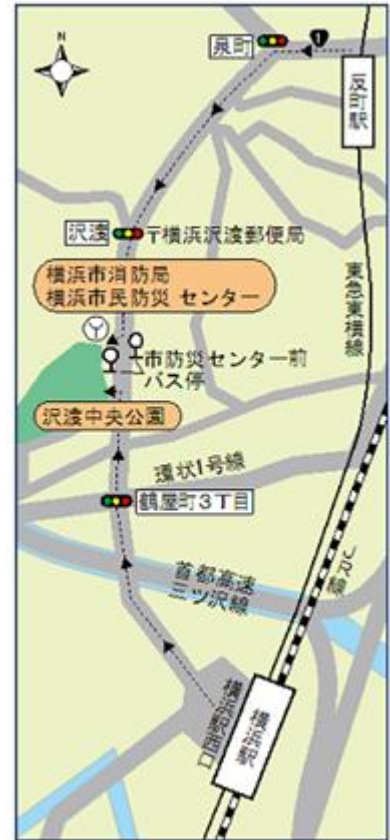
10:00～15:30

会場：横浜市沢渡中央公園及び横浜市民防災センター訓練室
 神奈川県沢渡4-7（横浜駅西口より徒歩20分）

地図はかながわ区ホームページ（2012年版）のものを使用させていただきました。

『よこはま水と緑の日』、『地元自治会』、『友・遊・まちづくりフォーラム』との共同開催で、『第7回かながわ湊フェスタ』の中で開催されます。

バオバブの会は2012年に続き、2回目の参加です。公園内に出展し、展示による活動紹介と、マフェとヤッサ（今回はご飯にかけて提供します）、ベニエ、ケベサック、アフリカ関連児童書他を販売します。



***第5回 GOSPEL FOR PEACE**

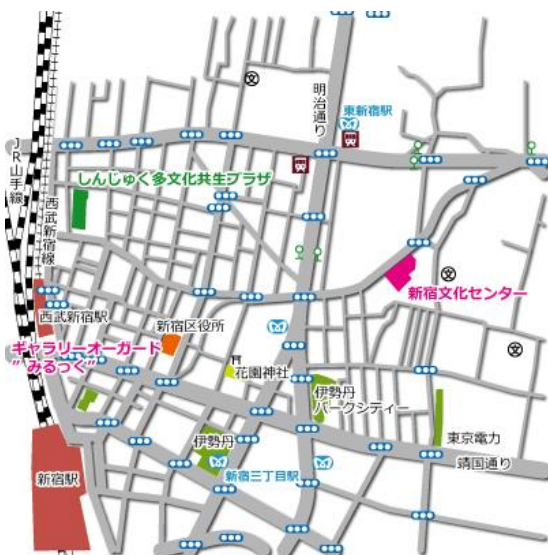
日時：2014年5月31日（土）

開場：15:30 開演：16:00 終演：20:30

会場：新宿文化センター

新宿区新宿6-14-1 TEL. 03-3350-1141（新宿駅東口より徒歩15分）

地図は新宿文化センターのホームページのものを使用させていただきました。



チケット：前売 一般 1,500円

幼児～小学生 500円

当日 一般 2,000円

幼児～小学生 500円

*チケットぴあコード228-045

チケットぴあのカウンター、電話、HP他、「ファミリーマート」「サークルKサンクス」「セブン・イレブン」で購入できます。

「楽しい時間のために使ったお金が、別の場所で大きな力となる」を合言葉として、ゴスペルを通じた国際協力活動を展開するNGOゴスペル広場<http://www.gospelhiroba.com/html/index.html>が、年に1回開催するチャリティコンサートです。コンサートの収益は、バオバブの会を含む5つの国際協力ボランティア団体に寄付されます。バオバブの会は4回目の参加となり、ロビーにて、展示による活動紹介とケベサック、アフリカ関連絵本・児童書他の販売を行います。

★★★★ ことわざで開く、アフリカ文化の窓 ★★★★★
第14回 「意志の力」

エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

(訳・文責 水野)

次の言葉をどこかで読んだことがあるような気がします。「世界を変える人とそうでない人との違いはひとつしかない。どちらも同じことを考えるが、前者は考えるだけで終わらないということだ」。つまり、世界を変える人は、自分の考えを具体化するために行動する、というのです。そのような人は、考える力だけでなく、意志の力、率先して身を投じ行動を始める勇氣を持っているのでしょう。

しかし、人間は未来をすべて見通すことができないので、行動には必ずリスクが伴います。失敗、そして、それによって生ずるさまざまな損害があります。経済的な、また社会的な損害、健康面での損害、さらには死にまで至ることもあります。そして、そのようなリスクの予想が、恐怖や行動への躊躇を引き起こすわけです。

ですから、世界を変えようとする人々が少ないのは当前です。しかし、どのような言語にもどのような文化にも、恐怖や躊躇を乗り越えて行動へと向かうのを励ます、多くのことわざがあります。あるものは、予測される危険や犠牲をささいなものだと思わせようとします。たとえば、ガボンのアンベデの人々の「猿は、傾斜がきついからといって、木に登るのを恐れない」です。また、到達するところへの興味をおこさせ、成果の大きさと素晴らしさを強調して、行動を促すものもあります。たとえば、南アフリカのホサの人々の「そこへ行けば、わかる」(そこまで行けば、予想をはるかに超えた素晴らしいものが見える、行かなければ見えない、の意)です。

けれども、今回は、ことわざをたくさん集めるのはやめにして、ひとつのことわざに注目したいと思います。それはコンゴの人々の「世界は誰のものでもない、犬を恐れる人だって死ぬのだから」です。

ご覧のとおり、このことわざは2つの部分に分かれています。前半も後半もそう簡単に理解できるものではありませんが、もっとも難しいのは、一見、無関係に思える、前後のつながりを見つけ出すことではないでしょうか。

そこで、まずは前半から見てみますが、最初の言葉、<世界>とは、どのような意味で理解したらよいのでしょうか。海や大陸や生物・無生物を含んだ<地球>のことでしょうか。そのように<世界>を物質的な意味で考えれば、「誰のものでもない」というのは、世界は最初からそこに在って、誰か特定の人のものではなく、すべての人に開かれて、すべての人が自由に使えるもの、ということになります。これは実に高邁な超国家主義的思想であり、「すべての人々には居住と往来と、そこで幸福を求める権利がある」といえるものです。しかし、このような権利は、国境線を引き、パスポートを制定することによって失われ、この思想もすたれ、甘い幻想となってしまいました。

しかし、＜世界＞という言葉をもっと抽象的な意味で、＜自分が生きる場所＞と考えたらどうでしょう。それならば、「誰のものでもない」は、自分の世界は誰か他の人のものではなく、自分自身のものである、ということになります。そして、その世界は自分のものなのですから、そこでどのように生きていくのかは、誰からも強いられることはないかわりに、自分自身の意志で決めていかなくてはなりません。つまり、権利も義務も自分もち、ということになります。

ここにひとつの問題があります。とりわけ、今なお多くの人々が、独裁者のもとや貧困の中で生きていることを思うと。しかし、それでもなお、自分の世界を少しでも良いものにするためにできることがあります、大なり小なり行動する自由があり、たとえ一歩でも進む力があるはずで、どのような状況の中でも、行動するかしないかは、その人の意志の力にかかっているのではないのでしょうか。

このように考えると、後半とのつながりが見えてくるような気がします。

その後半に登場する＜犬＞という動物が、ニワトリや豚や羊や山羊や猫のように、人間にとって無害な家畜であることを理解するのに、伝統的なアフリカ人である必要はないでしょう。犬は、無害なばかりでなく、私たちにもっとも忠実に寄り添ってくれる、友のような動物です。それなのに、犬を恐れるという人は、よほどの恐がりであるといえます。

しかし、かりに犬はライオンと同じように危険なものだとして、もし犬に襲われたらどんな危険があるのでしょうか。最悪の場合、それは＜死＞です。けれども、＜死＞はすべての人の運命であり、避けることのできないものです。避けられないものを避けようとするのは、愚かなことです。

とはいえ、私たちの中には生存本能と呼ばれるものがあります。その働きにより、意識しているかいないかにかかわらず、すばやく危険を避け、死を遅らせようとします。そして、この本能は、恐怖に対して敏感に反応する人の中で、より明らかに認められるものです。死の恐怖にとらわれている人を想像しましょう。その人はすべてが恐ろしく、たとえ人間の友である犬にでも近づくのが怖いのです。危険のない場所はどこにもないということ、いち早く気付いてしまったからでしょう。そのため、不愉快な結果や最悪の場合には死をもたらすことになるのを恐れて、何もしようとしないのです。

しかし、それでも死はやってきます。死は、危険を冒す人だけを選ぶのではないからです。死は誰にでもやってきます。ことわざのとおり、犬を恐れ、犬に近づくのを避ける人にも。リスクを恐れず世界を変えるために行動する人にも、失敗や事故や損害や死を恐れて何もしていない人にも、死はやってくるのです。

さて、これで前半と後半がつながり、このことわざの心がおわかりになったことと思います。それは「誰のものでもないあなた自身の世界。そこでどのように生きて、いつかは死がやってくる。それならば、あなたの世界をより良いものに変えるために、あなた自身の意志の力で、行動せよ！」ということではないでしょうか。

バオバブの会

〒240-0052 神奈川県横浜市保土ヶ谷区西谷町993-35

TEL&FAX 045-373-0059 HP: <http://the-baobab.org>

代表 エル・ハッジ・マサンバ ディウフ

寄付振込先:

三菱東京UFJ銀行八重洲通り支店普通口座no.1523673

ゆうちょ銀行振替口座 00200=1 45215